

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

「おもてなし」と「親身で丁寧な医療」を重視

⑩ 聖光ヶ丘病院 (千葉県柏市)



ヨーロッパのホテルを思わせる外観

首都圏有数のベッドタウンである千葉県柏市。中でも大規模団地のモデルとなった光ヶ丘団地に、聖光ヶ丘病院は2013年6月に新築移転・開院した。ヨーロッパの古城を利用したホテルのような外観に驚く。「ホテル業界は、ホスピタリティー(思いやり・心からのおもてなし)を重要視する。ホテルと病院(Hospital)の語源は同じラテン語の言葉。病院こそ本来のホスピタリティーが必要と考え、建物は外観から細部に至るまで患者さまの居心地の良さに重点を置いた」と関根秀夫理事長兼病院長。

ロビーにはぬくもりが感じられる暖炉、ガラス張り

の吹き抜けになっている華やかな「光庭」。エレベーターホールには光庭の四季を描いたステンドグラスや大型絵画が飾られており、美術館に似たような病棟、病室も壁紙やカーテンの選定、色合いに細心の気配りを行っている。特に個室は高級ホテルの一室を思わせる高級感が漂う造りだ。豪華で心温まる雰囲気の中、病院のゲストコーディネーター「コンシェルジュ」が院内の案内、入院手続きなど各種サービスを行うだけでなく、患者の要望や相談を医師に伝え、的確な医療が受けられる体制を整えている。

旧病院は開設当時は療養型病院だったが、その



患者を迎える暖炉

柏市の特定健診受診率アップに貢献した健診センター



5人の経験豊富な医師がいる内視鏡センター。検査時の苦痛が少ないと評判

病院のシンボルとなっている水が流れる花壇のある光庭



高級感漂う特別室

病院最上階にあり、スカイツリーや富士山を望むレストラン。病院長考案の地域ゆかりの「山吹御膳」「道灌カレー」が好評

後、地域ニーズに応える形で一般病院に方針転換。市街化調整区域であった旧病院建物では、最新医療に対応できる設備と医療スタッフの充実を図る上で改修・増設が困難で、旧病院から約800m離れた光ヶ丘団地に新築・移転した。移転時に、地域にちなんだ「聖光ヶ丘病院」と名称変更し、5階建て、病床数219床(一般病床131床、医療療養型88床)に増床、最新設備を備えた放射線検査室や健診センター、内視鏡センターを備えた病院となった。

聖光ヶ丘病院の理念は「患者さまに優しく、親身に丁寧な医療」を実践すること。大病院にありがち

な冷たく感じる、一方的に押し付ける医療ではなく、医師が患者と家族の話を丁寧に聞きながら十分に話し合った上で心の通った医療を行うのが特徴で「安心できる」と患者、家族から評判だ。

地域の高齢化、在宅医療に対応すべく、近隣の在宅クリニック、診療所、病院および有料老人ホームなどの各施設と連携し、協力病院、後方支援病院として地域医療、在宅医療に取り組んでいる。

「おもてなし」と「親身に丁寧な医療」を掲げ、移転から1年で早くも地域の信頼を得た聖光ヶ丘病院。今後も地域医療の貢献に期待が持たれる。